

特別展

開館35周年収蔵品展

CORRELATION

Special Exhibition
Okayama Prefectural Museum of Art
35th Anniversary Collection Feature
CORRELATION

— 交流と継承

2023 5.19 (金) — 7.2 (日)

FRI 19 MAY - SUN 2 JUL

開館時間 : 9:00-17:00 5月27日(土)、6月24日(土)は19:00閉館
(入館は閉館30分前まで)

休館日 : 月曜日 6月13日(火) 6月14日(水)から後期展示

無料開館日: 5月20日(土)、6月17日(土)

観覧料 : 一般700円/大学生400円*/65歳以上600円*
団体(20名以上): 一般550円/大学生300円*/65歳以上450円*
*年齢や所属を確認できる証明書や学生証等をご提示ください。

以下の方は観覧無料です

小中高生/キャンパスメンバーズの学生/「ももっこカード」をお持ちの方(土日祝のみ、小学生以下の子ども同伴の家族全員無料)/中国地方各県の子育て支援応援パスポートもご利用いただけます/身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳や難病患者であることを証する書類をお持ちの方及び介護者1名/教職員の引率する県内の小中学生/県内の学校に在学する外国人留学生/障害者手帳アプリ「ミライロID」をご提示の方。

後期再来館割引のご案内

使用済前期観覧券を後期来館日にご持参ください。以下の割引価格で入場できます。(団体割引はありません)
一般 350円/大学生200円*/65歳以上 300円*

主催: 岡山県立美術館
後援: 岡山県郷土文化財団、公益社団法人岡山県文化連盟、
一般財団法人岡山県国際交流協会



【16】

【1】

開館35周年収藏品展

CORRELATION - 交流と継承

Special Exhibition
Okayama Prefectural Museum of Art 35th Anniversary Collection Feature
CORRELATION

岡山県立美術館は本年3月18日に開館35周年を迎えました。

購入や寄贈等により年々深化していく当館収藏品を、すべての展示室を利用して、紹介します。

同時代で交流する美術、そして前の時代から後の時代へと継承する美術を、それぞれに趣向を凝らしたテーマで紐解きます。

絵画、彫刻、工芸といった分野、そして古美術から現代美術までをたどる彩り豊かな展示です。どうぞお見逃しなく。



【4】

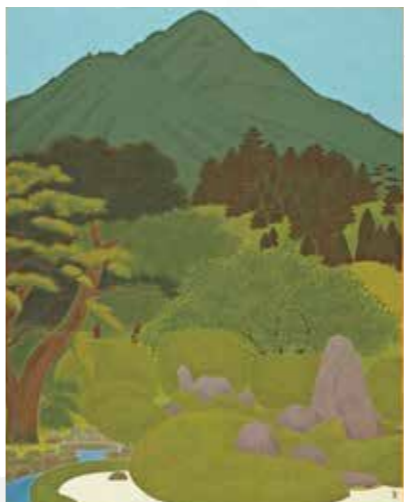


【2】

一九五七年設置の岡山県総合文化センターには図書館とギャラリーの部門がありましたが、美術品の購入や寄贈の窓口にもなっていました。一九八八年に当館が開館するにあたり、総合文化センターは主に貸しギャラリーとして活用、美術館は作品や資料の収集と保管、調査・研究をもとにした展覧会を開催するといった機能分担が図られ、文化センターが所蔵する油彩画の多くは当館に管理換えされました。当館収藏品の原点になった管理換作品を中心に展覧会の始めに紹介します。続いて、佐藤一章や日原晃など公募展で活動した画家の作品を取り上げます。



【3】



【10】

彫刻家、平柳田中が所属した再興日本美術院では、彼と同じく岡山とは縁が深い日本画家の片岡球子、塩出英雄らも活躍しました。また衣裳人形の平田郷陽や田中にも学んだ大林蘇乃もいます。ここでは、田中につながるのある作家たちを一挙紹介します。

満谷国四郎は岡山中学で松原三五郎に美術を学びました。松原は岡山と大阪で画塾を開くなど多くの後進を育てます。のちに日本画家になる池田遙邨もその一人です。満谷は東京で柚木久太や佐藤一章を教えています。満谷と松原を中心にした特集展示です。

【12】



【13】

京都で活躍した近世から近代までの画家を特集。江戸時代の四条派の画家・岡本豊彦、柴田義董や、近代では京都市立絵画専門学校に学んだ小野竹喬、森谷南人子、池田遙邨らを紹介しします。

【8】



【9】



【6】

山地や多島の内海がある岡山の自然や文化を題材に、多くの作品が生まれました。



【5】



【19】



【18】

備前焼作家の場合、しばしば親子が師弟関係で、兄弟とも作家ということもあります。また備前焼で初の人間国宝となった金重陶陽のところにはいろいろな作家が訪れ作品を残しています。洋画家では三組の夫婦、渡辺文三郎と幽香、小野絵麻と二三、木原康行と千珂を紹介します。

雪舟とその周辺作品、さらに当館所蔵の中国絵画が一堂に会します。また、浦上玉堂とその息子・春琴と秋琴、そして近しい人々を取り上げます。

【17】



【14】



柳宗悦らによって提唱された民藝運動は、倉敷の実業家である大原孫三郎らが発展を支えます。岡山県においても民藝運動が盛んとなり、民藝に関わる作家が頻りに来岡しました。



【7】



明治に入ると松岡壽や原田直次郎、原撫松は、国内で油彩画を学んだあと、さらなる飛躍をめざして、それぞれイタリア、ドイツ、イギリスへ留学して、秀でた作品を残しました。国吉康雄と犬飼恭平は、移民として渡米後画家を志し、同地で画家として成功を収めました。

《関連事業》

■記念講演会「岡山県立美術館35年の歩み」
 講師：守安 収（当館館長）
 日時：6月11日(日) 14:00-15:30
 会場：2階ホール 予約不要 聴講無料

■展示解説
 講師：当館学芸員
 内容：各学芸員が担当した部分を解説します
 日時：毎週土曜日(全7回) 14:00-14:30
 5月27日(土)と6月24日(土)は18:00-18:30にも実施します
 会場：2階展示室、地下展示室
 予約不要 要観覧券
 詳細は当館ホームページで発表します

[22]



[23]



[24]



(図版キャプション)

特記がない作品はすべて岡山県立美術館所蔵品

1. 寺田武弘《変位(1)》1969
2. 斎藤真一《明星》1980
3. 佐藤一章《雪の朝》1947
4. 坂田一男《コンポジション》1949
5. 不詳《桃太郎絵巻》江戸時代(18c)
6. 淵上旭江《五畿七道図》『山陽奇勝之図』より「備中豪溪」1796 序 B
7. 河井寛次郎《三色篇壺》1962 個人蔵
8. 岡本豊彦《夏冬山水図屏風》江戸時代(19c) B
9. 小野竹喬《ヨウシュキヤゴボツ》1962 B
10. 塩出英雄《閑庭》1966 A
11. 平柳田中《五浦釣人》1922
12. 溝谷国四郎《瀬戸内海風景》1917
13. 池田遙郎《冬の入海》1922 A
14. 金重陶陽《志野茶碗》1945 個人蔵 B
15. 加藤土師萌《備前花入(号忘銘)》1953あるいは1964 頃 B
16. ◎雪舟等楊《山水図(傲玉澗)》室町時代(15c) A
17. 雲谷等益《楼閣山水図屏風》江戸時代(17c) A
18. 浦上玉堂《山高水長図》江戸時代(19c) A
19. 浦上春琴《偃山清曉図》1844 B
20. 原田直次郎《風景》1886
21. 国吉康雄《祭りは終わった》1947
22. 東島毅《S-004》1996
23. 松井えり菜《あなただけDreaming!》2018
24. 大西伸明《mini kupa》2008

A 前期展示(6月11日まで)
 B 後期展示(6月14日から)

当館では開館間もない一九九一年度に、当時93歳であった佐竹徳の個展を開催しました。その次の現存作家の個展は二〇〇六年度になり、当時46歳の東島毅でした。本展出品作はこの個展で発表され、その後購入した作品です。二〇〇七年度から、岡山県にゆかりのある40歳以下の新進美術家に対し、候補者の推薦と2段階の選考を経て「I氏賞」が贈呈されています。当館では受賞作家の作品購入を継続しており、第1回大賞受賞者の大西伸明から第12回大賞受賞者築山弘毅までを紹介しています。



交通案内 [JR岡山駅 後楽園口(東口)から]

- 徒歩 | 15分
- 路面電車 | 東山行「城下」下車 徒歩3分
- 岡電バス | 後楽園、藤原団地行き「天神町」下車すぐ
- 宇野バス | 四御神/瀬戸駅/片上方面行き「表町入口」下車 徒歩3分

ご来館の際は、できる限り公共交通機関をご利用ください。



岡山県立美術館
 OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
 TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648
<https://okayama-kenbi.info/>